

A landscape featuring colorful, layered mountains in shades of brown, orange, and grey, with patches of snow on the peaks. In the foreground, there are dark, jagged rocks covered in green moss. The sky is overcast.

任意团体  
STAND—UP

任意团体  
WORD—UP

**私たちの想い**

**夢や希望が持てる  
社会を取り戻そう**



# 代表理事挨拶

私が所属していた団体は諸事情により、'23年12月31日を持って、一旦活動を休止することになった。私は、活動休止の連絡を受け、目標を失いかけたが、これまでやって来たノウハウを活かしていこうと思い、来年1月初旬から新しい団体を立ちあげることにした。

私は、中学に入った頃から福祉に携わっており、高校在学中には、「民間支援」というボランティア団体を、私が中心となり設立した経験があります。あれからもう、4年近くが経ちました。初めは、その団体の母体で活動してましたが、そこを半年ほどで止め、その後「県」や「社協」を通じて、福岡県内を中心に活動していました。何時の間にか大阪に活動場所が移り、府内(大阪)を中心に活動が始まりました。'22年の夏、前団体に所属し、活動を新たにしました。幸いにも私には、「子ども支援」という経験があったので、子ども達の気持ちに寄り添った、きめ細かい支援を心掛けながら活動することが出来ました。私の思いとしましては、今まで思っただけのもの、なかなか実現に至らなかった「グローバル社会の実現」があります。まだ、未知の世界です。周りの人に聞きながら、進めていくこととなります。

新しい事業は、'24年1月初旬から、試験的運用を始めようと思っていましたが、今年初め、「石川県において地震が発生」したことで、stand-upとして既に支援に入っています。本格的には、4月1日からを予定しています。

今年初めから新しい団体を先行スタートさせようと思っていた矢先の震災の一方でした。お正月休みを取り、実家に帰省しているいた時のことでした。知人から災害発生との連絡。そして、私は直ぐに日頃からお世話になっている、団体に連絡し、災害派遣を決意し翌朝から支援にあたりました。

こういった事情もあり、活動範囲が日本全体に渡ることになりました。そのことから、一団体では、限界があると感じ、私が以前所属していた団体の形態を残し、団体名を変更して スタンドアップだけでは賅えないところをカバーすることにしました。

各団体、省庁。そして、地方自治体の方々との繋がりには既にありますので、団体の方向性を決めるだけでした。そして、スタンドアップの本格的スタートと同時に全団体の名称を変更させ、スタンドアップの支部としてワールドアップがスタートしました。

スタンドアップが事業内容に掲げている、「ありとあらゆる、自然災害への対応」そして、社会問題化しだした、「ヤングケアラー」また、以前から取り組んでいる「障害者問題」も合わせて事業化していき、スタンドアップと足並みを揃えてこれから先歩んで参ります。

とても長くなりましたが、これを挨拶に代えさせていただきます。  
今後、末永く両団体のご支援よろしく願いいたします

**代表理事**

# 団体概念

ありとあらゆる社会問題を手がけ、解決していくことで、明るい社会の創生、人々が暮らしやすい環境づくりに貢献していきたい。また、人々が夢と希望を持って暮らしていけるよう尽力していきたいと考えています。障害者に至っては、社会に出て働いてみたいと思えるような魅力ある社会作り、企業紹介ができるように努めていき、雇う企業にとっては、「雇ってみたい」と思えるような障害者の紹介ができるよう努めて行きます。そして、専門機関との連絡、連携を密にして、あらゆる方向からアクションできるように努めていきます。

自然災害、「発生時・発生後」の対応をきちっとしていくことで、障害者、ひいては要配慮者を守ることに繋がっていくのではと考えてます。

また、昨今社会問題化してきた、ヤングケアラー問題。私たちは、国や行政機関をサポートしつつ、私たちでなければできない、支援・サポートが行ければと考えています。

現代社会に目を向けたとき、どの企業、団体もグローバル社会ということを念頭に置いて動いています。私たちも、取り残されないようにしなければならぬと感じており、グローバル化(社会)の実現が、今後の日本を大きく成長させる重要な鍵になって来ると考えてます。

現代社会を見て、先を見据えたとき浮かぶのは

全ての人々が手と手をつないで、ともに歩める社会の創生 が重要なのではと考えてます。

# ビジョン



ボランティアスタッフを充実させ、企業や各省庁・専門機関、各団体と連絡を取りながら、今、団体が取り組んでいる事業の拡充を図っていききたい。  
そして、支援を待っている、要配慮者一人ひとりに手を差し伸べて行けるようにしたい。

自分が今までしてきた活動の中に、障害者雇用・災害時支援がありました。それをこれを今からの団体の事業に取り入れ、今まで以上に力を入れて行けるように努力したい。グローバル社会の実現に向け、動き出している現代社会に遅れることなく、しっかりついて行けるように準備を怠ることくしていきたいと考えてます。いきたい。

ケアラー問題。その中でもヤングケアラーに絞って、取り組み、少しでもヤングケアラーに陥っている若者たちを救い出したい。  
ヤングケアラーの問題解決は、そう簡単ではないことは、調べた結果わかった。解決していく糸口は、ヤングケアラー達の話を書くことから、話を聴いて上げることが先決であることが明らかになっている。当団体は、そこからの入っていき、徐々に若者たちの心を開放して行きたい。  
意見、情報の共有ができる場を提供して行きたい。

## ミッション



ネットワークの環境の充実。

- ・それぞれの情報の収集、共有、拡散。
- ・対象者に正確な情報の発信が出来るようする。
- ・災害発生／その後の被災者・要配慮者に必要情報の収集、発信。  
そして、共有。
- ・障害者状態に合わせた日中生活支援・サポート。  
雇用の促進。そのためには個々の状態に合わせた技能実習。

新たな取り組みである、「ヤングケアラー支援」では

- ・認知度の向上を図っていく。(定期的な講演会の開催)
- ヤングケアラーが相談しやすい環境づくり  
(スマートフォン等に専用の相談窓口の開設)

災害が発生したとき、企業にとって最も重要になる BCP の策定を  
推進していく。必要であれば、相談して来られた企業とともにBCPを策定。

# アクション

災害派遣をもっと充実させ、如何なる状況でも対応できるように備えること。

障害者問題においては、障害者の日中生活のサポート、支援を中心に置きながら企業に積極的なアプローチをし、障害者一人ひとりの状態に合わせた、雇用の促進を図っていく。

また、新たな取り組みである、ヤングケアラーについては、まだ社会的に認知度が低いため、先ずヤングケアラーが何なのかということをも SNS やオンラインを介して拡散していくことから始める。

BCP においては、その重要性、必要性を企業に対して、定期的な講演会を開くことで知ってもらう。

上記のことを可能していく上で重要な鍵となるネットワーク。

そのネットワーク (SNS) を充実させることで、災害発生時や障害者への行政サービス等。必要な情報の収集や共有が図れるのでは。

そして、得た情報をオンラインを介して、開示していく。